リスク・収益管理の工数を削減するためTableauを導入
使いやすい分析基盤の確立で「データの民主化」も推進

Before 導入前の課題

経営分析のために月次で定形レポートを作成していたが、基幹系システムからのデータ抽出や加工、集計を手作業で行っていたため、膨大な工数がかかっていた。またアドホックな分析にも時間がかかっており、タイムリーなリスク評価等を行うことが難しかった。

After 導入後の効果

定形レポートの作成工数が大幅に削減され、アドホックな分析も必要であればデイリーで行うことが可能になった。またデータ抽出・加工のために DWH を新規に構築したことで、データ抽出・加工の属人性も排除。専門家でなくても使いやすい分析ツールによって「データの民主化」も推進しやすくなった。

会社概要

楽天損害保険株式会社
https://www.rakuten-sonpo.co.jp/

業種：損害保険

従業員数：
595 名（2019 年 3 月末現在）

資本金：
51 億 5,315 万円（2019 年 3 月末現在）

所在地：
〒 101-0053　東京都千代田区神田美土代町 7 番地　住友不動産神田ビル

事業内容：
楽天損害保険は 1951 年に、朝日火災海上保険株式会社として設立された損害保険会社。2011 年 5 月に野村ホールディングスの連結子会社となった後、株式公開買い付けによって楽天の連結子会社となり、2018 年 7 月に社名を楽天損害保険株式会社に変更した。2019 年 3 月末時点の総資産は 3,174 億円。「FACE TO FACE」をモットーに、既成概念に捉われないユニークな発想で、顧客の新たな保険ニーズに対応し続けている。

導入製品

導入時期：2019 年 2 月

導入製品：
Tableau Server
Tableau Desktop

主な利用環境：
基幹系システムからデータを抽出した DWH

導入に要した期間：約 3 か月

導入の背景

楽天グループの一員として、既成概念に捉われないユニークな発想で顧客の新たな保険ニーズに応え続けている楽天損害保険。従来の代理店チャネルでの保険販売に加え、楽天グループの顧客に対しても新しい方法で価値を提供すべく、日々進化を遂げています。2018 年度は未曽有の自然災害に見舞われた年となりましたが、前年比 55%増となった年間事故受付件数に対し、年度末までに 99.7%以上の支払いを完了。もしものときに頼れる損害保険会社として、重要な役割を果たしています。

契約者に対して確実に保険金を支払い続けるには、精度の高いリスク管理と収益管理を行い、経営の健全性を確保する必要があります。そのために楽天損害保険の数理部では、経営分析のための定形レポートを月次で作成。

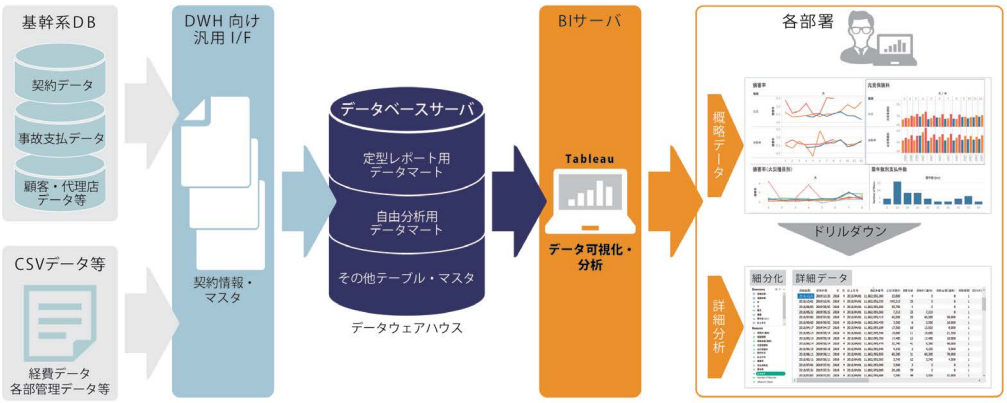
「すでに BI ツールも導入されていましたが使うのが難しかったため、これらの作業は Excel 等を使った手作業で行われていました」と振り返るのは、数理部 数理部長（2018 年当時）の小川 達也氏。そのため膨大な工数と時間がかかっていたと説明します。「例えば月次の定形レポートの作成は、毎月 10 人日程度かかっていました。またデータ抽出や加工が属人的な業務となっていたため、分析の粒度を細分化したり、異なる観点から分析するといったことも困難でした」。

商品開発のためのアドホックなデータ分析にも時間がかかっていました。ユーザーが必要とするデータを集めるところからスタートしていたため、1 回の分析に 1 週間程度の準備期間が必要だったのです。そのためこのような要求に対応できる頻度は年に 4 ～ 5 回程度に限られており、追加分析の要求に対応することも困難でした。

Tableau 導入・運用環境

これらの問題を解決するため、2018 年 12 月にデロイト トーマツ コンサルティングをパートナーに、分析基盤構築に向けたプロジェクトをスタート。ここで分析ツールとして選ばれたのが Tableau です。

このプロジェクトではまず、分析対象のデータを集約するデータウェアハウス（DWH）を構築。ここに、保険契約データや保険金支払いデータ、経理データなど、経営分析を行うために必要な複数の基幹系データを、日次で抽出する仕組みを作り上げています。さらにそのデータを加工し、用途毎に Tableau 用データマートを作成。これらを Tableau 10.5 からサポートしている「.hyper」形式で Tableau Server に取り込み、インメモリ型で分析できるようにしています。



© Copyright Tableau Software, Inc. 2019. All rights reserved. Tableau Software, the Tableau Software logo, and Visual Analysis for Databases are either registered trademarks or trademarks of Tableau Software, Incorporated. Other company or product names may be the trademarks of their respective owners.

お客様プロフィール

お名前：小川 達也 様

役職：数理部長（当時）

部門名：
数理部（当時）

主な担当業務：
外資系生命保険会社を経て、2018 年 10 月に楽天損害保険 数理部 数理部長に就任した後、2019 年 10 月から楽天インシュアランスホールディングス株式会社チーフアクチュアリー。生命保険会社にて決算業務、商品開発、営業企画に従事。楽天損害保険 数理部にて保険数理業務に従事し、Tableau 導入を推進。日本アクチュアリー会正会員、公認会計士。

Tableauについての質問

Q1. Tableau で感動したことは？
「デモを見たときに、これまで手作業で集計してきたデータよりも細かいデータが、すぐに見られることに感動しました。またどんどんディメンジョンを追加してドリルダウンできる点や、ボタン 1 つでグラフが作成されるのも素晴らしいと感じました」

Q2. Tableau 導入後の変化は？
「以前は分析に関わる業務が数理部に集中していましたが、現在は各部で作業が行えるようになり、データの民主化が進みました。数字は集計して終わりではなく、そこからストーリーを見出すことが重要なので、このような変化は望ましいことだと思います」

Q3. Tableau でしたいことは？
「Tableau で分析できるデータ領域をさらに拡大し、全社員が当たり前のように数字を扱う企業文化を作っていきたいと考えています。例えば営業部門の数字も、営業部門以外の社員が見ることで、これまで得られなかった知見が得られるようになるはずです」

分析用のダッシュボードは Tableau Desktop で作成し、Tableau Server 経由で提供。ユーザーはこのダッシュボードに Web ブラウザからアクセスします。またユーザーが作成した Tableau の分析レポートは共有フォルダに格納されており、他のユーザーのレポートを参考にすることも可能です。

DWH の構築は 2019 年 2 月にスタート。これと並行して、2019 年 5 月には Tableau 関連のシステム構築にも着手します。2019 年 7 月にはシステム構築が完了し、約 1 ヶ月のユーザー受入期間を経て、2019 年 8 月から利用を開始。説明会の実施や個別の質問対応等により、数理部以外の社員の使用促進を図ったと言います。

「このプロジェクトで目指したのは、数理部だけではなくほかの業務部門も当たり前のように数字を使えるよう、データの民主化を推進できる基盤を確立することでした」と小川氏。そのためユーザーにとっての操作感や処理スピードには、特に配慮したと語ります。

またデロイト トーマツ コンサルティングでシニアコンサルタントを努める村上 将一氏も「データ量がかなり多いので、.hyper のようなデータ形式を持たない他社製品では、十分な速度は出なかったはずです」と説明。「今回は現場の課題を解決するボトムアップのアプローチだけではなく、全社としてあるべき姿を見据えたトップダウンのアプローチも行うことで、お客様のご要望に対応いたしました」。

Tableau 選定の理由

Tableau の採用理由については、「当初は Tableau 以外の製品も検討していましたが、大きく 3 つの理由から Tableau の採用をお勧めすることになりました」と村上氏は説明します。

第 1 の理由は「.hyper」形式をサポートしていることです。これにより大容量データをサマライズすることなく、そのままの形で高速に Tableau へとインポートすることが可能。これがなければ、多面的な分析が可能なデータマートを日次で更新するといったことは、実現不可能だったはずだと言います。

第 2 はユーザーインターフェースが直感的でわかりやすいこと。データの民主化を進めていくには、幅広い部門のユーザーが使えなければならないため、このような特長も必要不可欠でした。

そして第 3 が、すでに親会社である楽天も Tableau のユーザーだったことです。同社は「データドリブン型企業」になるべく積極的に Tableau を活用しており、2019 年 5 月に開催された Tableau のイベントでもその取り組みが発表されています。このような状況も、Tableau 採用を後押しする要因になったのです。

Tableau 導入効果

Tableau の導入は、楽天損害保険に複数のメリットをもたらしています。

定形レポート作成の工数削減

月次で作成している定形レポートの作成工数が、大幅に削減されました。以前は毎回 10 人日かかっていたものが、現在ではわずか 1 人時で完了するようになっています。

アドホックな分析がいつでも容易に

定形レポートの他に、必要に応じてアドホックに行う分析も、実施しやすくなりました。このような分析の実施頻度は、以前とは比べ物にならないほど増えています。

業務部門も自分自身で分析が可能

Tableau のユーザーインターフェースは直感的でわかりやすいため、データ分析の専門家でなくとも利用が容易です。そのため数理部以外の社員も、自らの手でデータ分析が行えるようになりました。

「使えるデータも月次から日次へと鮮度が上がったため、必要であればデイリーでデータをチェックし、リスクの判断を行うことが可能です」と言うのは、楽天損害保険 数理部で数理課長を務める大柳 正宏氏。今年は昨年以上に自然災害の多い年になりましたが、その影響を迅速に把握することが可能になったと語ります。「視点を変えた分析も容易になりました。階層化されたディメンジョン項目をドラッグ＆ドロップするだけで、欲しいデータをすぐに可視化できます」。

業務部門からも Tableau は高く評価されています。そのなかでも営業部門からは「Tableau を使用すれば、容易に営業数値が把握できるため、これを活用したい」という声が寄せられていると言います。

今後の展開について

今後は分析業務のパターン毎に定形レポートを作成し、これまで以上にスピーディな分析や可視化が行える環境を整えていく計画です。また Tableau の分析対象となる DWH のデータソースも、さらに拡充していくことが視野に入っています。

「デロイト トーマツ コンサルティングは、カラム数が非常に多いといった損害保険ならではのデータ構造にも配慮しながら、最適なシステムを構築してくださいました」と小川氏。また DWH を新規構築したことでデータ抽出・加工の属人性が排除され、データ分析プロセスの標準化が可能になったことも、高く評価していると語ります。「Tableau そのものもユーザーフレンドリーで、とても使いやすいと思います。これからもこの基盤を積極的に活用し、データの民主化を推進していきたいと考えています」。

無料トライアル版をダウンロードして、ぜひ Tableau をお試しください。

http://www.tableau.com/ja-jp/trial

Tableau Japan 株式会社 (Email: japan@tableau.com)

© Copyright Tableau Software, Inc. 2019. All rights reserved. Tableau Software, the Tableau Software logo, and Visual Analysis for Databases are either registered trademarks or trademarks of Tableau Software, Incorporated. Other company or product names may be the trademarks of their respective owners.